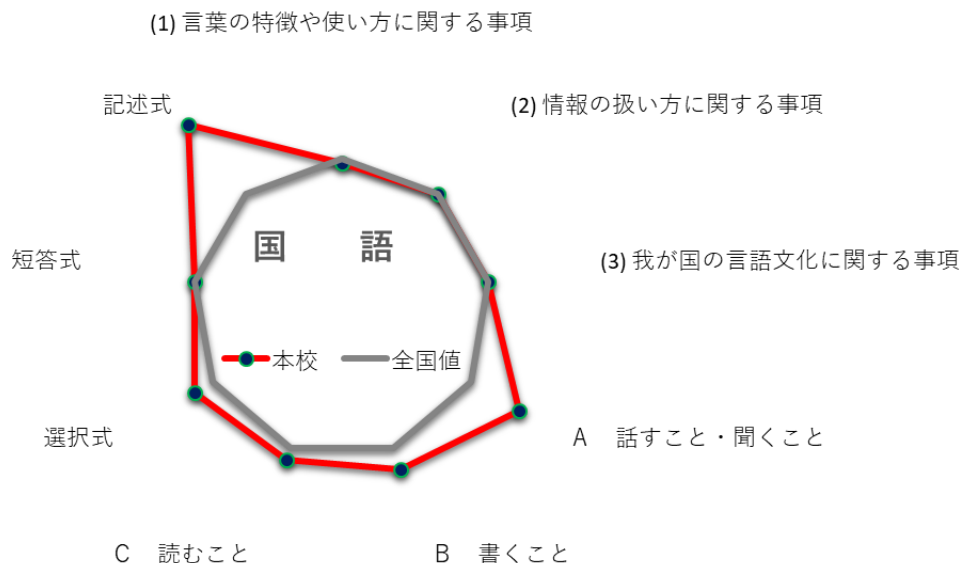


## VI 本校の学力調査結果【概要】～公開用～

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

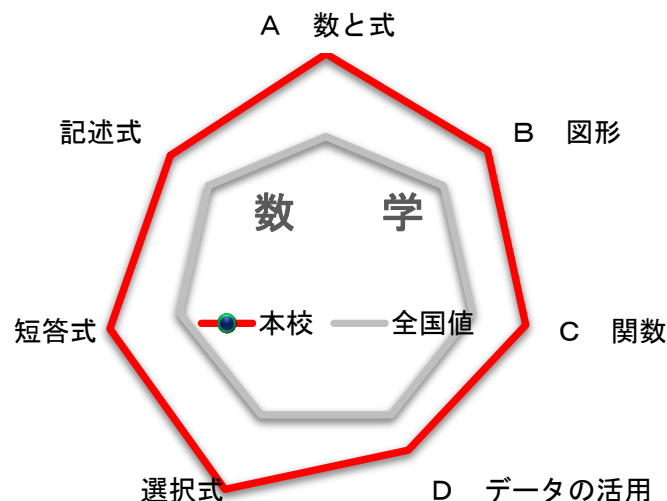
### 【国 語】



#### 〔状 況〕

- ・総合正答率は、全国値を大きく上回る結果であった。
- ・領域別では、「知識技能」の「言葉の特徴や使い方」において全国値を下回ったが、「思考・判断・表現」において、特に「話すこと・聞くこと」において、全国値を大きく上回った。
- ・問題形式別では、全ての形式で全国値を上回る結果であった。

### 【数 学】

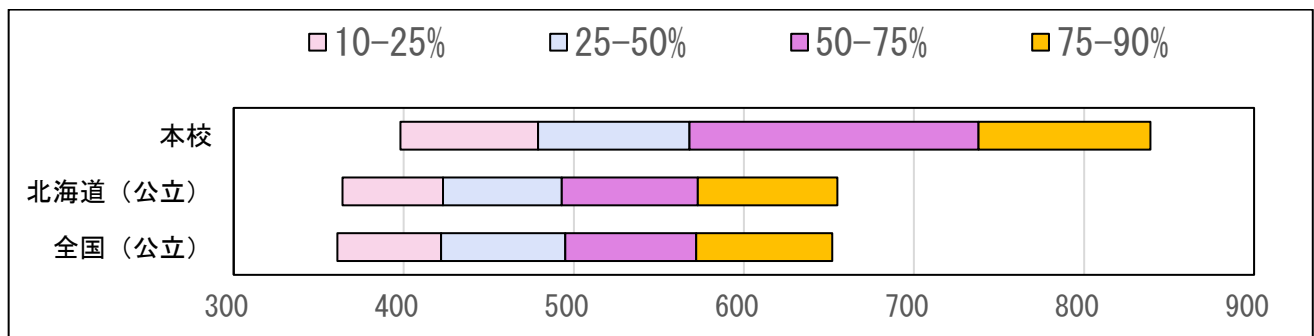


#### 〔状 況〕

- ・総合正答率は、全国値を大きく上回る結果であった。
- ・領域別において、「Dデータの活用」領域において、正答率がほぼ全国平均と同等であったが、「A数と式」「B図形」「C関数」領域の正答率は全国値を大きく上回った。
- ・問題形式別では、どの形式においても正答率は全国平均を上回っており、「選択式」問題の正答率は全国値を大きく上回った。

## 【理 科】

理科は、CBT（コンピュータで解答）で実施され、26問（全員が解く公開問題10問＋個別に割り当てられる非公開問題16問）を基に「IRT方式」で学力を推定されます。IRTは問題の難易度などを考慮して算出する「能力の推定値」です。問題ごとの難易度や正答のされやすさを統計的に調整し、生徒の「本来の力」をより正確に数値化して比較できるようにした指標です。



**総合正答率は、全国値を大きく上回る結果であった。** 七

七中の分布は全国に比べて平均が高く、特に上位層の得点が顕著に高くなっています。しかし、全体的に高いものの、ばらつきの幅が大きくなっています。今後は、上位層の発展的学び（深い学び）と下位層の基礎補充（個別最適な学び）の双方を重視した指導のあり方を設計していきます。

## 【本校全体の状況】

### 【本校の課題】

本校においては、国語、数学、理科ともに全国平均を大きく上回る結果でした。

（北海道全体の状況は、理科において全国平均より上回っているが、国語、数学は全国平均より下回っています。）

目的や条件に応じて理由や根拠を示すための資料やデータの活用、実生活において適切な言語を用いて「表現」するための知識・理解の観点に改善の必要性が見られました。

### 〔本校教職員の研修〕

これまでのスタイルである「一斉型の授業」のほか、「自らの考えや取組を分析し、まとめて発信する」ような授業スタイルが求められており、今回の調査でもそのような取組による深い学びを問うような問題が多く出題されました。

本校では教職員が「主体的に学習する生徒の育成」という研修テーマのもと、教務部を中心として全教職員で「思考・判断・表現力を向上させるための指導の研究」を主題として授業改善に力を入れています。

各授業において ICT を活用した『個別最適な学び』（主体的な学び）と対話的な学習を活用した『協働的な学び』（対話的な学び）を通して、「深い学び」の形成を目標としています。

### 〔ご家庭との連携〕

生徒質問紙の結果からは、「学校へ行くのが楽しい」と感じる生徒の割合がやや低く、学校生活を心から楽しめていない様子もうかがえました。一方で、「友だち関係」や「自分の良いところを認める意識」などは比較的肯定的であり、人との関わりの中で安心感を得ている生徒が多いこともわかりました。

ただし、「自分に自信がある」「自分には多くの良さがある」といった積極的な自己肯定感はやや低く、自分を前向きに評価する力を育てることが今後の課題です。

全体として、本校の生徒は人間関係の安定や思いやりの面では強みをもつ一方で、生活習慣や学びへの意欲の面では改善の余地が見られました。

家庭でのメディア利用や睡眠習慣の乱れが学習リズムに影響していることも考えられ、学校・家庭・地域が一体となって「望ましい生活習慣づくり」を進めていくことが必要です。

特に、家庭でのメディア利用を見直す取組である「アウトメディアデー」を地域ぐるみで継続的に推進することは、親子で生活のリズムを整えるきっかけとなる。家庭での会話やふれあいを通して、子どもが自分を大切に思える時間を増やしていくことが期待されます。

学校としても、授業や学級活動の中で「安心して話せる関係づくり」や「学ぶ楽しさを実感できる時間づくり」を大切に、生徒一人ひとりが笑顔で学校生活を送れるような取組を推進して参ります。